

# 全産業 DI 値はわずかに改善 建設業の DI 値は改善傾向

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。  
平成28年4月～6月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率70.5%

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合)－(減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

## 管内全産業の業況

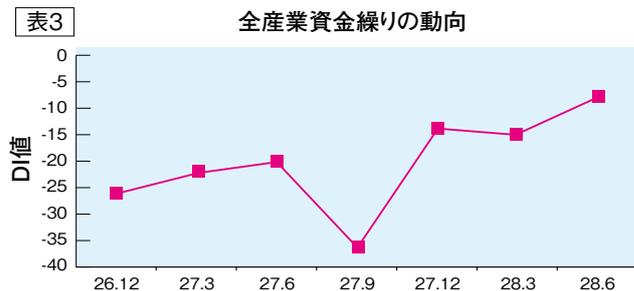
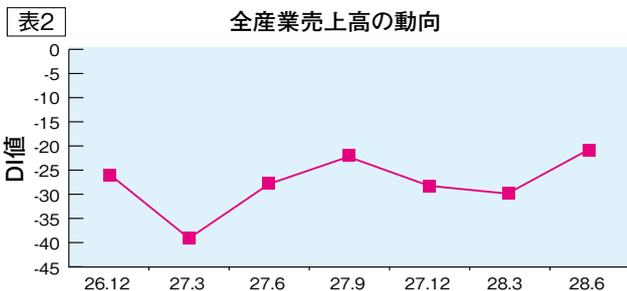
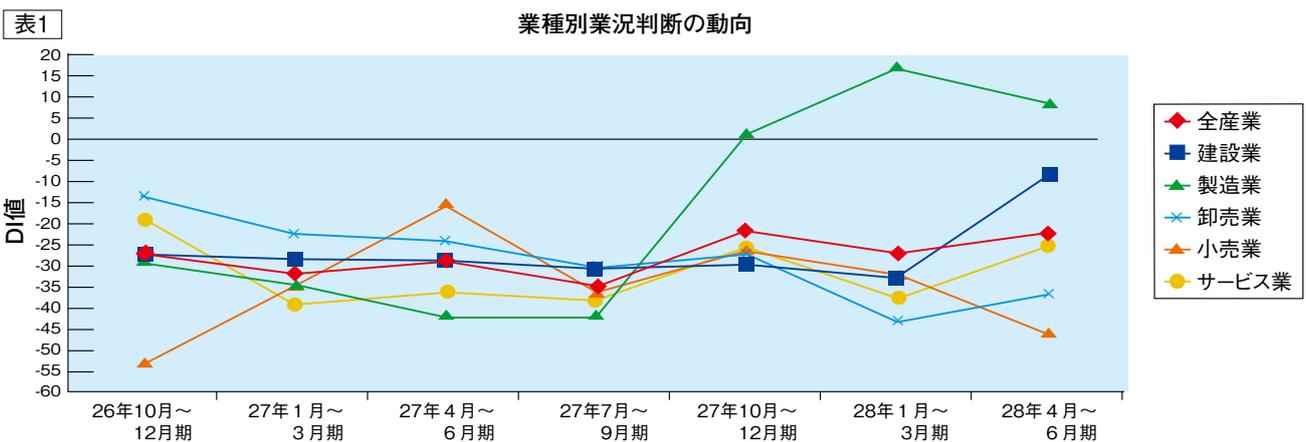
業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲21.1で前回(H28年1月～3月)より7.1ポイント改善。今回は小売業以外で改善が見られ、特に建設業では29.1ポイントの改善がされました。経営上の問題として前回に続き悪化している小売業では需要の停滞、消費者ニーズの変化への対応があがりました。

全産業売上高の動向(表2)：前回(H28年1月～3月)より10.3ポイント改善しました。

全産業資金繰りの動向(表3)：前回(H28年1月～3月)より2.8ポイント悪化しました。

全産業採算の動向(表4)：前回(H28年1月～3月)より8.7ポイント改善。5期連続の改善となりました。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H28年1月～3月)のDI値から4.1ポイント改善しプラスに転じました。



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL054-641-2000